

一冬越えたユリノキを調査 厳しい冬を乗り越えられたか！？

早生樹とは、他の樹木と比べて成長が良く、早く大きくなることができると期待されている樹木です。津軽森林管理署では早生樹であるユリノキを令和6年度の春に植え、樹高と根元の直径、全体の状態を調査しています。

豪雪も融けて山にも春が訪れた6月3日、ユリノキの調査を行いました。ユリノキの生長にワクワクしながら現地を訪れた私たちを待っていたのは、繁茂した草木たちでした。ユリノキの姿は埋もれてしまい、簡単には見つけれられません。これは時間がかかりそうだと思いながら、草木をかき分けてユリノキを探していきます。

ユリノキはしっかり大きくなっているものもありましたが、雪の重さで折れてしまったものも多くありました。やはり、北米原産のユリノキには津軽の冬は厳しかったのか？ しかし、よく見てみると根元から葉っぱが生えています。萌芽です。ユリノキは幹が折れてしまっても、新しい芽を活発に出すことで、冬に受けたダメージを乗り越えていたのです。簡単にはやられないという精神、私も見習いたいところです。

成長したユリノキ



折れて萌芽したユリノキ



街路樹のユリノキ



次の調査は、秋になってから。夏の間に、どれだけ生長していくのか楽しみです。また、ユリノキの生長を調べるために、植栽密度や下刈の回数を変える試験地を設定しています。これらの違いが今後どのように影響していくのか興味深いです。

ユリノキは街路樹として植えられることがあり、意外と身近にもあります。チューリップのような花をつけ、葉の形も特徴的なので、ぜひ探してみてください。

津軽森林管理署 森林育成・ふれあい担当 猪股龍希